

「2022年度国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学法学部3年 長村京有子

① 学習効果

今回、私個人的な留学の目的は、「海外文化から日本文化を見つけること」でした。というのも、海外に行く機会や、大学内外で欧米人と接する機会が増える中で、日本の独特な文化について興味を持ち始めていたからでした。もちろん、例えばヨーロッパ等の方が地理的に遠いこともあり、日本文化との違いは見つけやすいと思います。しかし今回は、日本が占領していた過去のある台湾をあえて選び、「似た文化から違いを感じる」ということは、台湾でならでの経験でありました。「親日国」と一般に言われる台湾ですが、渡航前、この点に疑問がありました。占領国に対しては負の感情を持つのが一般的だと考えていたからです。ですので、この疑問を解決することが今回の留学における個人的な大きな目的でした。

② プログラム、海外での経験

今回の留学では、台湾大学生として日常生活を体感する中でできた台湾大学の学生との関わりや、韓先生が用意してくださった教授方との交流会で、友達や教授方と日本と台湾の関係について議論を深めることができました。そして、私なりにではありますが、私の持っていた疑問についても答えを発見できたように思います。短期留学は何度か経験がありましたが、今回は初めて非英語圏で、かつ現地の大学生として学びました。今までは主に友達との交流や思い出づくり、語学能力向上に注力していましたが、今回は、渡航前から台湾について調べ、現地では自分の疑問を自分なりに調査し、自分の興味に対する理解を深められたという点で、自分の中ではとてもアカデミックであったと思います。そして、海外で学ぶ、ということは私の一つの夢ではありますが、それを現実にするための準備はステップを、より具体的に思い浮かべられるようになったという点でも、今回の留学は渡航前・中・後ともにとても充実していました。

③ 進路への影響

進路への影響ですが、留学など何かしらの方法で海外で学ぶ（院進や交換留学に限らず）ということへの意欲が高まった一方で、日本にいる間における学習意欲が高まったと思います。留学中に学習効果を高めたり、人と（私の思う）有意義な会話をするためには、受け身ではなく、目的を持って自分で解決しようという能動的姿勢や、その目的を持つためにも日頃の事前学習が大切であることを実感したからです。また、職業に直接的な関係はなくても、母国である日本の文化について深めておくことは大切であると思いました。意識はなくても、日本で生まれ育った人は皆、日本文化の影響を心身ともに大きく受けていることは自明です。自分に対する理解や、また外国文化の理解において母国文化の理解はとても重要であると感じました。